芦高新聞

発行所
芦屋市宮川町82
県立芦屋高校
編集
出版部

選挙公報

各候補者の抱負

会長候補

二―I　藤本清二郎

昨年の今頃、「やる気がある」「好きだ」、と言って副会長に立候補した。しかし現在の気持はそんなに軽いものではない。――人生における自治会活動の重要性・必要性（自治会活動は思考の場である。）――即ち高校時代をどの様に考え生きるか？現実の悪い面に負けず、逃避せず、その障壁には「若さ」というエネルギーを持って、協力し合い、協力しあって打勝ち、喰って生きてゆきたい――自ら強く感じ、又広く芦高生に訴えたい心意気である。

高校の自治会活動というのは自治会員の思考による行動だと思う。現在の芦高の問題は、思考の無い行動・行動のない思考即ち「誤った自由」、又思考も行動もならない「無努力・無関心」であり、わし逐げたい。

かり易く言えば「何をしても自由、おれには関係ない、やってもあほらしい、ダラダラしている」という現状、更に問題認識の甘さにあるのです。自治会活動は熱行なら少人数がやっても意味なく自治会員全体が団結し、やってゆかねばなりません。

◎現状を打破するには――まず自治会員自身、現実の問題をもっと考え、環境に負けない強い人間になるよう努力する事、もっと若さを発散させる事です。又熱行なる指導的立場の者は会員に問題を提示し、仕事を分担し、H・R活動やサークル活動を通じて生徒同志、生徒と先生をもっと親しい関係にし共に手をとり深く考えるように導く事です。又あらゆる面においてもっとP・R し、記念祭などの行事を形式的なものから高校生活における意味をなす。皆の行事にする事です。――なぜであるが余り欲張って手をつけた事は完全に成功である。なぜなら、自分が一年いているような状態が現実だと感じ、高校生活を送ってきて、痛感しているからである。

掃除もろくにしないで帰ってしまう生徒、ゴミを放置しても何んとも思わない生徒、そのような生徒が果して自由という言葉を言う権利があるだろうか。それでもあほらしいとダラダラしていてくる。だが、我々はすでに他人からどうこうされるという受身的な行動をとる年代ではないのだ。すなわち、自分はどうするかというような自主的な行動をとるべき年代だと思う。それでは、具体的にはどうと、それはただ一つ話し合う、そして、自覚する。これ以外には何の手段もないのだ。自分はこの話し合う場をできるだけ多く設ける事に努力したいと思う。

また、現在疑問を感じている事がある。それは現在果して熟行委員会が自治会のためになっているかどうかである。自分達は街に浮やりたいと思う。

副会長候補

二―L　織田　昇

まず第一にやりたい事は「最低ある自由」を達成する事である。第二に「自治会員のための熱行委員会」を自らず事である。これら二つの目標は是非ともやりたい事である。

書記長候補

二―B　西村勝比古

現在の芦高は、「無気力」「バラバラ」で何か一本足りないような雰囲気によっておおわれてしまっています。これらのことの根本的な原因は色々深いところに根を張っているとは思いますが、高校生活を少しでも有意義に楽しくするためにも我々高校生として、できる限りの力をつくし、これらの雰囲気を解消していくよう努力しなければならないと思う。私もそのために努力して行きたいと思う。具体的には、一、熱行委員会を盛会にノ現在の熱行委員会・代議員会は、一般自治会員からはなれてしまい宙に浮いた状態にあります。代議員の出席率も大変悪いのが現状です。低調・無関心なことを打破し、常に活気ある自治会にしたいと思います。

二、生徒と先生との親睦を！学校を構成しているのは、生徒と先生であり、又我々の人間的な展のためにも、先生との対人関係は、大切だと思う。現状では、お互いに敬遠し合っている感があるので、もっとお互いに深く知り合う必要があると思う。◎H・R の運営に計画性を！

三、L・H・R の運営に計画性を！

四、サークル活動の活発化

◎存在を明確に（P・R）◎運営面の改善を！大体以上のようなことを公約として持っています。

執行委員候補

一―D　孝橋雅男

僕がこの芦高に入って感じた事は、先ず「若さがない」という事でした。なるほど服装や持物を見ると最新流行の先端を走っているようですが、どう見ても実質的な「ファイトある自治会」これがボクの目標である。高校生らしく若さがあふれ、ファイトに満ちた自治会。この目標に一歩でも近づくために次のようなことを考えている。

① 自治会活動におけるクラブ、現在のクラブを見ていると、自治会の基に組織されていることをほとんど認識していないような印象を受ける。クラブ活動に関しては全く無関心ということは矛盾していると思う。だからクラブの部室と執行の間でよく話し合い、そして、自治会活動の種々の問題について、クラブで話の合えるようなムードを作りたいのだ。

② 愛される部。

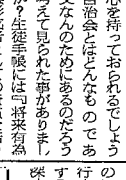
現在、「敵声」やフォークダンスが行なわれているが、二つともP・R不足が原因して、幽霊活動となってしまっている。もう一度企画を練り直し、本当にみんなに愛される活動にする。また、スポーツの校内大会を執行やクラブの主催で行なえば、クラスにまとまりが出来るし、また、自治会活動についても関心を持ってもえるだろう。

③ 開放的な熱行部。

自治会員が熱行委員を知らない。これが芦高の現状である。実際に接していると、どの人も好人物なのであるが、この現状では閉鎖的と思う人が多いのも当然である。そこで、学校集会などを通して熱行委員が自分の意見を述べ、それに対して会員の人が意見を発表するようなことをやってはどうかと思う。

また色々とあるますが、紙面の関係で立会演説会のお楽しみにしておきます。とにかくガンバリますのでよろしくお願いします。

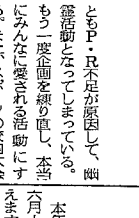
一―D　木野戸　裕



みなさん、みなさんは現在の芦高の自治会というものに、どれほど関心を持っておられるでしょうか？自治会とはどんなものであり、又なんのためにあるのだろうかと考えて見られた事がありましょうか？生徒諸君は勿論将来有為の社会形成者としての資質を培うための学習期と共に設置された高の自治会というものに、どれほど関心を持っておられるでしょうか？

私たちの学園をより住みよいものにするために理想的学園像を達行するために、もっと自治会に対する、そして選挙に対する関心を深めることが必要ではないでしょうか。

一―F　久保富三夫



若さがないように思ったのです。そこでこの自治会役員選挙に立候補し、打勝って活気ある自治会」です。「芦高はクラブが活発だからそのようなスローガンは不必要だ」と言う人も我われていますが、それでは何故、このような「団結ムード」をこの芦高にも植えつけたいのです。「夢物語」と言えばそれまでかも知れません。しかし、僕達は若いのです。日本教育の矛盾、芦高自治会の現状、色々きびしい現実を見つめなければいけないかも知れません。しかし僕達若人がからそのうなひねくれた社会人へのマネをしてよいものでしょうか、僕達は別に創価学会の会員でもない人会を勧めるわけでもありません。僕はあるいった宗教団体にはあまり感心出来ません。しかし、彼等の団結力、いや団結ムードを味わえば誰でも感激すると思うのです。僕達は、また自治会なるものの運営や活動の状況もまだまだ未知数ではありますが、今度の選挙一つを見ても、芦屋という学園の中で、生の人間と人間がぶつかり合い魂と魂のふれ合う生きた修練の場だと信じております。

私はよりよい立派なそれらの場をつくるために、自治会を通じて努力したいと思います。

選管よりひとこと

選挙管理委員長　野田朝則

本年度の「自治会役員選挙」はうか。それではどうすればよいのでしょうか。残念ながら立会の特効薬は見当りません。しかし私たちは一時の飛躍を望むよりも毎年少しずつの向上のために選挙を有効に使うべきです。たとえ信任投票であってもこの人なら芦高の自治会を任せられるという期待をもって判断した場合はともかく、他にいないから、というようなあやふやな理由で信任するようなことはせずに正しい積極的な姿勢で選挙に臨まれますように望みます。

そして当日、投票第一〇〇号を目標に、まじめな（あえて申します）投票をされますようにお願いします。

劇昭和四十年度選挙管理委員

二―A	新開栄一郎
二―E	亀山　年子
二―F	矢野　雅美
二―H	川勝昭治郎
〃	野口　恵子
〃	野田　朝則
二―L	浜野　保
一―A	青木みふみ
一―E	垂野　正倫
一―G	徂田真理子

選挙日は六月十八日です